

盆栽ラップソデイ

ペンネーム

鵜川うかわ

京子

(水谷

京子)

■登場人物表

平星楓ひらほしかえで(26) 会社員

井上陸りく(30) 盆栽センターの研修生

平星耕吉(85) 楓の祖父

平星博(57) 楓の父

平星優子(55) 楓の母

平星幸代(82) 楓の祖母

宮崎梨花(26) 楓の友人

斉藤麻友(26) 楓の友人

和泉達郎(53) 盆栽センター長

夫 1 40歳代

妻 1 40歳代

「道（夕）」

農家と新しい住宅が入りまじる住宅地。その中に、田んぼや盆栽畑、オリーブ畑が点在する。植えたばかりの稲の苗がきれい。その前を黒髪をなびかせ平星楓（26）が自転車ですっそうと走る。

② 「盆栽センター」前の道（夕）。

楓が自転車で走る。

③ 耕吉の家・前（夕）

平星耕吉の平家があり、隣りの敷地に博の家が建っている。平星耕吉（85）が前庭の一面に植えた黒松の盆栽二十本を、剪定している。楓がやってきてそこで自転車から降りる。

楓 「おじいちゃん、ただいま」

耕吉 「お、楓か、おかえり」

耕吉 「あ、この松を指し、もう二十数年、手

楓 「へー、とるなあ」

耕吉 「あ、博に、後で話があるいうとってく

楓 「了解」

「博の家・外観（夕）」
二階建て。塀には「平星」の表札。

④ 同・前庭（夕）

平星博（57）が車の中の釣具を片付けている。楓が入ってきて、車の横に自転車をとめる。

楓 「ただいま。お父さん、おじいちゃんが

博 「話があるって。どうせあの盆栽をお前が

楓 「やれゆう話やろ。松とか興味ないわ」
 博 「確かに、お父さんにセンスがあるとは思えんわ」
 楓 「たもんなんか、それにあんなしろうとが作つたもんなんか、なんの価値もないわ」
 楓 「お、お父さん……」
 楓、博の後ろを見て目が点になっている。
 耕吉 「そこには、盆栽ハサミを手にした耕吉が仁王立ちしている。」
 耕吉 「価値がないとはなんだ！わしが丹精込めた盆栽を。あれはな、売れば一鉢二十万はするぞ」
 博 「このあたりの家を見てみい、もう盆栽やっつてるとこなんかあるか。昔とは違うんや」
 耕吉 「国分寺は盆栽の里や、センターもできはほろびるぞ！」
 耕吉 は、興奮してハサミをかざし、その反動でよろける。
 楓、耕吉をささえ、
 楓 「あぶない！」
 と、ハサミを取り上げる。
 耕吉 の家から、平星幸代(82)が杖を持って小走りやってくる。
 平星優子(55)も、慌てた様子で博の家から出てくる。
 幸代 「お父さん！心臓、悪いんだから、落ち着いて」
 耕吉 「(小さく)このバチ当たりが」
 幸代、耕吉に杖を渡し、息を整えさせる。
 楓 「おじいちゃん、それなら、盆栽センターに頼んでもっと盆栽を広めてもらったら」
 耕吉 「センターか、わしもまだ行ったことないな。JAがやっつてるから間違いないやろ」
 幸代 「でも足も悪いし……」
 博 「楓、お前、一緒に行つてやれ」
 楓 「(小声で)なんで私が……」

博 「(大きな声で) 楓は車も持ってるし」
耕吉 「すまんの、楓」
楓 「う、うん。じゃ、一回だけ」
耕吉 「あそこの盆栽には負けんぞお」
そつとため息をつく楓。

9 青空に盆栽畑が広がる光景
メインタイトル『盆栽ラップソング』

10 博の家・外観
二階の出窓から白のレースのカーテンが見える。

11 同・二階楓の部屋

部屋にはラップのアニメ『ヒップノシマイク』のポスター、声優のDVD、CDなど、雑然としている。

楓、斉藤麻友(26)、宮崎梨花(26)とジュースなど飲みながら、
楓 「というわけで、我が家は盆栽戦争勃発よお」

梨花 「しぶいな」
麻友 「うちは婚活しろとか、めっちゃうるさい」

楓 「え、二十六でもう婚活？」

麻友 「若いうちは条件がいいからって」

梨花 「恋愛もめんどくさいのに、結婚なんて考えられない」

麻友 「恋愛がめんどくさいうと、ほんとに好きな人に出会ってないだけ、って必ず言われる」

梨花 「『ほんと』ってナニ？って話よね」
楓 「私たちのことは放っておいて欲しいよ。迷惑かけないように生きていくから」

12 同・リビングダイニング

優子 「優子と博がダイニングテーブルで。」
博 「うん。今日も上、オタクのふたりか」
優子 「麻友ちゃんはアニメーターで、梨花ち

博 「んとはコスプレイヤ、ふたりともちゃ
 うどつちにするよ」
 優子 「うじゃ、彼氏はなしか」
 博 「きそう、旦那さんか、麻友ちゃんか、ぱりアトピ
 ーだから恋愛に臆病なかな」
 博 「じゃない。こつちから願い下げだ」
 優子 「優子の博と自分の話よ」
 優子 「転勤で小学校を2回変わったのもかわ
 いそうだったわ」
 博 「お前は、すぐかわいそうって、過保護
 なんだよ」
 優子 「あなた考えたさすぎなのよ、ひとり
 娘なの。だよ。いたい乾燥肌だってあなた
 ゆずりなのよ」
 博 「背中をかきなぐら、
 博 「あ、オレ、釣り具屋、行かないと」
 博 「あ、ひと口だけ、ヒ―を飲みそそくさ
 と、唇をとがらせ、二階を見る。」
 優子 「と、唇をとがらせ、二階を見る。」

10 同・二階 楓の部屋

梨花 「なんでもみんな恋愛したいのか、マジわ
 かんない。国民の義務なの？」
 楓 「それぞれ、好きなことをして生きれば
 いいのにねー」
 麻友 「あ、『ヒプノシスマイク』の新作！」
 梨花と麻友、「見せてー」と手を伸ばし、
 テンションが上がる。

11 走る 軽自動車

12 軽自動車・内

運転する楓、助手席に耕吉。

13 盆栽センター・全景

「盆栽センター。高松盆栽の郷」の看板がある。

14 同・駐車場

駐車場へ軽自動車が入っていき、とまる。車の運転席から楓が降り、助手席から降りる。耕吉に手を貸す。盆栽展示場には美しい盆栽棚の光景が広がりに壮観。閑散として客はいない。遠くにひとり作業着の男がほうきで掃除をしている。楓と耕吉、盆栽棚を見ながら、左手の事務室へ向かう。

15 同・事務室・前

耕吉「こんちは」
受付で、うとうとしていた和泉達郎（53）

和泉「はつと顔を上げ、
「いらつしやいませ」
と、口で作った急ごしらえの笑顔。

胸に「盆栽センター長 和泉」のネームプレート。

16 同・内

和泉「ソファに座った耕吉と楓に紙コップのお茶を出しながら、
「平星さんはこの地区の自治会長さんを

耕吉「十年さねていたとお聞きしてます」
「二十年間やけどな、たいして変わら

和泉「冷や汗をかきつつ、いつもおきれいに

盆栽を作らせていて、
「盆栽を遊ばすわ。しかし、この盆栽

耕吉「な、窓の外に広がる盆栽棚を見る。」

和泉「鬼無・国分寺は全国の松盆栽の八十%

を占めていて、全国のいや世界一の生産

和泉「地です。」

耕吉「和泉、パンフレットを差し出す。は増えた話です。盆栽を作るとこはめっきり

減った。ここからと盆栽を広めてい

ただきた。ここからと盆栽を広めてい

和泉「和泉、深くうなずき、

ブームなんです。若い女の子や外国の方

にも人が高い。楓、顔を上げ「私？」と

退屈そうだった。楓、顔を上げ「私？」と

和泉「平星さんにご協力していただければ

：：「え、ワシが？」

耕吉「その時、井上陸(30)がほうきを持って事

務室に入ってくる。色白で塩顔。「井上」

和泉「井上くん、後でお二人を案内してくれ

井上「あ、はい」

耕吉「いや、私は足が悪いので、ここで：：」

楓「私、行ってきていい？」

和泉「盆栽も、ああいった若人がひっぱっ

ていつてくれると、いいんですけどね」

「同・盆栽展示場」

数多くの盆栽が棚の上に並べられている。

それを順にみている楓。後ろをついている

く井上。似ているようで、ひとつひとつ表情が違

う盆栽たち。ひとつひとつ表情が違

ひとつ何の小さな盆栽を手取る楓。

楓「これ何の木？」

井上「カエデ」

楓「これカエデなんだ。私と同じ」

井上「え？ ああ、名前。ちょっと変わった
形の木だよ。ね。」
楓「ふうい。」
井上「ふうい。」

楓「ふうい。」
井上「ふうい。」

楓「ふうい。」
井上「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

井上「ふうい。」
楓「ふうい。」

18 同・事務所・前

楓が帰ってくる。

耕吉「和泉、ここにこしている。」

和泉「近隣の、できれば若い人向けに盆栽フ

エスをしようと思います。平星さんが主

催してくれるそう、心強いです。」

楓「盆栽フエス、心強いです。」

耕吉「盆栽フエス、心強いです。」

楓「盆栽フエス、心強いです。」

耕吉「盆栽フエス、心強いです。」

楓「盆栽フエス、心強いです。」

耕吉「盆栽フエス、心強いです。」

楓「盆栽フエス、心強いです。」

楓「おじいちゃん！」
 耕吉「わしひとりじゃ、足も悪いしなあ」
 楓「もうそういう時だけ年寄りぶるんだか
 ら：：わかつた、送り迎えだけよ」
 耕吉「すまんあ」
 楓「困った顔で左の腕をしきりにかいて
 いる。」

19 博の家・リビングダイニング（夜）

博「優子、楓が手巻き寿司を巻いて食べ
 ながら、
 優子「あんたにイベントなんかできるわけな
 いじゃない」
 楓「そうだけど、手伝えつていうから」
 博「おやじのいつもの世話好きだ。勝手に
 させとけ」
 優子「フェスってナニ。音楽かなんかやるの？」
 楓「フェスティバルだからお祭り？ 盆栽
 を売ったり、手入れの仕方教えたり、
 植木みたいなものじゃない」
 博「おやじ、顔広いから近所の人ばかりか
 もな」
 優子「そのからいならいいか」
 楓「初夏だから暑いけどね」
 博「あー、また具合が足りないよお」
 楓「いる具は梅干しだけ。ご飯とノリをちよう
 どよく終いのよ、具とご飯とノリをちよう
 どよく終いのよ、具とご飯とノリをちよう
 最後の梅干をのせて食べて、すっぱい顔の
 博。」

20 稲がすくすくと伸びている

21 博の家・リビングダイニング

楓がソファでアニメを見ている。
 耕吉がリビングのドアを開け、入ってく
 る。
 楓、テレビを消し、

楓 「何、おじいちゃん」
耕吉 「楓、これ見てくれんか」

書いてある。そこに毛筆で

「一、盆栽の展示即売会

一、競り市

一、盆栽診断所

一、盆栽作り体験」

楓 「フェスの企画案？ いいじゃない。さ

すがおじいちゃん！」

耕吉 「(まんざらでもなく)そうか、センター

長さんと相談したんや。でも、これで若

いもんが来るかな。何か足りん気がする」

楓 「そんなことないよ。これでポップなるチ

ラシを作って配れば、きっとみんな来る

よ」

耕吉 「うーん、そうかな」

博 「博がやってくる。博、紙をとり、

「これじゃ、ありきたりだな。来てもし

いさんだけだよ」

耕吉 「なんだ、お前は。それならなんか考え

てみる」

博 「オレは盆栽、興味ないし。だれか若く

て盆栽好きに聞いてくれよ」

楓 「若くて盆栽好き：：」

22 盆栽センター・事務所

楓 が事務所のドアをのぞくと和泉が受付

にいます。

和泉 「こんにちは」

楓 「やあ、おじいちゃんにはフェスでお世

話になって」

楓 「そのフェスのこと井上さんとお話し

たいんです。お仕事中だけど、今、いい

ですか」

和泉 「ああ。水やりしてるからちょうどいい」

楓 「ありがとうございませう、」

和泉 「そうだと、楓ちゃん、たまには井上をど

つか連れてってやってよ」

楓泉「私が？」

和泉「楽しいのか、こっちが心配になるよ」

楓泉「盆栽が好きって言うて茨城から香川に来たの

和泉「でも、せつかく不便だし」

楓泉「うん、車もないから不便だし」

楓泉「うーん、香川：：うどん巡りかな？」

楓泉「首をかしげながら行く。」

23 同・盆栽展示場

井上がひとつひとつ丁寧に水をやってい

る後を、楓が後をついていく。

楓「それで、井上さんに力になって欲しい

んだけど」

井上「ここでやるなら当然手伝うよ」

楓「いや、それだけでなくて、何か若い人

が関心をもつような企画がないかな、と

思ってた」

井上「まだ見習いだし、このこともよくわ

らかないから」

楓「そうかもしれないけど。：：もし何か

あったら、私にラインしてもらえますか」

井上「いいけど。：：」

楓「じゃ」

お互いスマホを取り出し、ふりふりする。

井上「来ました。陸さんですね」

井上「はい、楓さん」

楓泉「あ、井上さんはおうどん好きですか？」

井上「ふつう」

井上「ですよー」

井上、首をかしげながら松に水をやって

いる。

楓、松を見て「あっ」と思った様子。

楓「松、松ですよ。私が高松でいちばん好

きなところ！」

井上「（首をかしげ）？」

24 盆栽研究所・井上の部屋（夜）

全体が白で統一され、無駄がなくすべて

きちんと整理されている。
ひとつだけ松盆栽が飾ってある。
井上、ベッドでスマホからイヤフォンで
日本語ラップ(『ライムスター』のような)
を聴いて、小さく口ずさんでいる。

25 石田事務機株式会社・総務課

時計は十二時半。昼休みで、部屋にはあまり人がいない。
制服姿の楓が、机のパソコンで「栗林公園」を検索して画像をいろいろ見ている。思いついて、検索画面に「茨城県」と入れる。
楓、画面を見てにこにこしている。

26 栗林公園・正門

楓と井上が入っていく。
「栗林公園」と石碑がある正面入口から、
楓 高松でいちばん好きなのが栗林公園なんです。春の桜、秋のモミジ、冬の枯れた感じも好きです。でも、中でもいちばんすごいと思うところ、案内されています。井上も広い庭や木を見て圧倒されている。

27 同・箱松の所

ふたり、屏風松や低い箱松のあるところに来る。
楓 「この箱松、すごくないですか。専門的なことはわからないけど、盆栽の技術を結集したって感じで、職人さんのどうだ！という意気込みを感じます」
井上 「下から、上から、細部にわたって見入っている。この樹芸」
井上 「うーん、すごいよ、この樹芸」
井上 はさかんにスマホで写真をとっている。

28 同・掬月亭・庭

楓と井上、庭の松の前にいる。

楓 「楓がリーフレットを見て、徳川の將軍からいただいた鉢植えの盆栽を庭に植えたところ大きく成長した五葉松、だつて」

井上 「写真、撮つてもいい？松の横に並んで」
楓 「あ、いいけど」

井上 「緊張した顔で松と並ぶ。」
井上 「これで大きさがよくわかる」
楓 「……」

29 同・同・茶席

楓 と井上、お茶とお菓子を前に池のある景色を眺めながら。

井上 「びっくりしたよ。こんなところがあるなんて。高松に来てよかつた」

楓 「いがつぺ？」
笑う井上。

井上 「んだ。うちは古河こがで東京に近いから、あんまり茨城弁は使わねえよ」

楓 「そうなんだ。なんで、高松まで来たの。関東にも盆栽はあるでしょう？」

井上 「(茨城弁で)オレ、ほんとはラップやりたくて、高校中退して東京に出たんだけど、ぞんぞん芽がでなくて。警備のバイトしてたら盆栽のイベントがあつて、これだ！と思つて」

30 盆栽イベント会場(回想)

立派な松盆栽の前で我を忘れて見入つて
いる井上。

31 栗林公園・掬月亭の茶席

井上 「遠くを見るように、(茨城弁で)それが高松の盆栽園だつたつぺ。オレは人ができることができねえで、バイトもよくクビになつたさ。あれこれよくできね。ひとつのことをずっとして

楓 井上 楓 井上 楓 井上 楓 井上 楓 井上
 「たい。盆栽だら何時間でも見てられる気
 が向いてるかも」
 井上 「茨城弁で」時間軸があうっぺ。盆栽
 をじつと見てるとこうして欲しいって声
 が聞こえるべ」
 通つてい前の池を観光客を乗せた和舟が
 通つていく。『ヒプノシスマイク』とか
 聞く？」
 井上 「あ、日本語ラップが好きだから」
 楓 「ほんよ！まあ、どっちかかっていうと、
 アニメから入ったんだけどね」
 井上 「へえ、『あゝオオサカ dreamin' night』
 はアガルなあ」
 楓 「私も好き！ラップなのに和風なのが
 たまには、」
 井上 「あ、は、」
 ふたり、話が盛り上がり、ハイタッチす
 る。

32 セルフのうどん店・外観

33 同・内

楓 井上 楓 井上 楓 井上 楓 井上
 切りしてゐる。ぎこちなくも楽しそう。湯
 × カウンター席でうどんを前にした楓と井
 上。×
 井上 「うどんをすすり、
 井上 「うまい！」
 井上 「うまいね、ほんとに盆栽以外
 興味ないのね？」
 井上 「さげなく調味料の位
 置を直しよう、と」
 楓 「そう、と」

34 耕吉の家・茶の間（夜）

耕吉は、『盆栽フェスティバル』のチラシを見て、「うーん」と、考え込んでいる。

幸代が来て、

幸代 「あなたももう風呂に入ったら」

耕吉 「何か足りない気が」

幸代 「そうですか、私はいいと思いますよ」

耕吉 「急に胸を押さえ「う、うう」っと

苦しみます。

幸代 「かよる。」

幸代 「あなたがくださいようぶ」

と背中をさする。

幸代 「苦しみます。」

救急車の音が重なる。

幸代 「あなた！」

35 県立中央病院・外観

36 同・手術室の前

幸代、博、優子、楓が集まって心配している。

博代 「おやじ、不整脈、あったからな」

幸代 「心臓の手術だなんて怖いわ、お父さん

に何かあったら」

と、ソファに寄り添う。

優子、隣に添う。

そこの隣に看護師たちが耕吉をのせたスト

レツチャを運んでくる。

幸代 「あなた、大丈夫！」

耕吉 「は、大丈夫！」

楓 「か、楓はいるか」

耕吉 「へ、お前のやっちゃん、頼んだぞ」

楓 「わかつた。おじいちゃん、安心して」

耕吉 「おじいちゃん、安心して」

楓 「おじいちゃん、安心して」

耕吉 「おじいちゃん、安心して」

楓 「おじいちゃん、安心して」

耕吉 「おじいちゃん、安心して」

楓 「おじいちゃん、安心して」

ふと振り返ると、幸代のしらけた顔。

博 「ま、ペースメーカーを入れるだけだから、
一時間くらいで終わるらしい。(ひとり
言で)おやじも年だしな―」
左の腕をしきりにかいている楓。

37 博の家・リビングダイニング(夕)

優子がソファでフェスのチラシを見てい
る。
楓が歩きながらスマホで電話をしている
。：：麻友、一生のお願い、フェスは今
度の日曜、あと、二日しかないの：：ウ
チで待ってるから―
楓、スマホを切る。
優子 「あんたは人の前に立ってなんかしたこ
とないじゃない。無理しないでセンチタ
ー
長さんにまかせなさい―
「だって、おじいちゃんど約束したから、
このままじゃ、だれもお客さん来ないよ」
楓、またスマホをかける。
楓 「あ、梨花、一生に一度のお願いがある
の：：―
優子、額にしわをよせ楓を見ている。

38 県立中央病院・病室(夜)

ベッドの上で半目で幸代にゼリーを含ま
せてもらって耕吉。
耕吉 「うーん。もつとちようだい―」

39 博の家・二階楓の部屋(夜)

出窓にカエデの盆栽がある。
楓、麻友、梨花の三人でフェスのチラシ
や看板の写真を見ている。
楓 「チラシは自治会を通していき渡ってい
るから、おじいちゃん知り合いは来て
くれないと思うのよね。でも若い人、これ
で来ると思う?―
梨花 「うーん、地味すぎるかも―
麻友 「なんか、もつと楽しそう!―
梨花 「欲しいね―
梨花 「看板は文字だけでなく、絵とか入れた

楓 「そうよね、盆栽の絵とか、入れる？」 麻
 友。イラストお願い！」
 梨花 「いつそ盆栽をアニメのキャラクターに
 したら。キラキラ系の」
 麻友 「ま、むしろそういうの得意だけど。人
 間のキャラに書き始める麻友。
 さらさらと書き始める麻友。
 梨花、楓、「うわー」 「さすがアニメーシ
 ョン学科卒」と口々にほめる。ふたりが
 意見を言い合い、キャラを煮詰めて描い
 ていく麻友。だんだんできあがるキャラ
 の絵。梨花、これでコスプレしてく
 れる？」
 梨花 「ほうん、時間ないけど、やるか！」
 楓 「楓が必死に頼むなんてあんまりないよ
 ね」
 麻友 「何でも手伝うよ」
 梨花 「へたれな私だけ」
 楓 「楓はやれる、大丈夫！」

40 初夏の強い日差しの中にすくと立つ稲

41 耕吉の家・仏間

蝉しぐれが聞こえる。
 二間続きの仏間は開け放され、扇風機が
 まわっている。
 麻友、楓が首にタオルをかけ、汗をぬぐ
 いながら、看板用の大きな絵やキャラの
 絵を仕上げている。衣装を着てチェックし
 梨花はコスプレの衣装を着てチェックし
 ている。
 そこへ井上が「おつかれ」と、コンビ
 ニの袋を持って入ってくる。
 梨花がその中から「あ、サンキュ」と、
 「クリッシュ」のようなアイスを取り
 出す。

梨花「あんたもなんか手伝ってよ」
 井上「オレ、何かしたくないの」
 梨花「警備とか、車の誘導とか」
 井上「じゃ、明日、車両係ね」
 梨花「もう、これ」
 井上「松っばい方が」

梨花「もう、松の写真をしながら体をひねり考える。楓が大きな用紙を持ち上げようとして、井上「あ、少し頭を下げる。」

42 盆栽センター・事務所・前（夕）

和泉「おつかれ、あつちはどう？」
 井上「そうか、楓ちゃんがんばるな。井上、飯まだか、たまには一緒に食おう」

43 定食屋・内（夜）

和泉「お前もよくがんばってるな」
 井上「別に」
 和泉「いや、ほんと、は東京から来てすぐイヤんなるかと思ってたよ」
 井上「茨城です」
 和泉「地元には彼女とかいるのか」
 井上「いません。：：：つうか、ずっといたところないし」
 和泉「なる。落ちてくるものを吹き出しそうに」
 井上「なんで見かけもそんなに悪くないの」
 井上「なんか面倒で。他人が部屋とか来るの」

和泉「イヤなんですよね」
和泉「わかんなさ。俺らのときなんか、な
んとか部屋に……。つてか、なんでイヤな
の」
井上「こう、自分の領域がおかされるみたい
で。自分、ちよつと潔癖症のところあつ
て、ひとりの方が気楽です」
和泉「楓ちゃんは何？」
井上「（顔をあげ）えっ？……。親切、かな。で
も、こっちは半人前だし、そんな感じじ
やないでしょ」
和泉「どうして」
井上「……。茨城弁で」オレ、人を好きにな
るって、よくわからねえべ」
和泉「いいと思うんだけどなあ……。ま、どう
せ地元に戻るか」
井上「……」

44 耕吉の家・仏間（夜）

作品は完成している。
やり切った楓、麻友、梨花が畳に倒れ込
んでいゝ。
麻友「おわった」
楓「ありがとう、みんな」
梨花「明日MCでしょ。自信もってやろ
うね」
楓「うん」
隣のテレビから「明日の降水確率は四
十%です」の声が流れている。
三人、疲れて、だれも気にとめない。

45 盆栽研究所・井上の部屋（夜）

井上、窓を開け心配そうに空模様を眺め
る。
くもった暗く重い空。

46 盆栽センター・全景

『盆栽フェスティバル』の看板。
くもり空で今にも雨が落ちそう。

駐。車。場。奥。に。朝。礼。台。の。よ。う。な。小。さ。な。ス。テ。ー。ジ。作。ら。れ、ス。タ。ン。ド。マ。イ。ク。が。設。置。さ。れ。て。い。る。

進。行。表。の。看。板、「B。O。N。S。A。I」と。書。か。れ。た。キ。ャ。ラ。ク。タ。ー。が。入。っ。た。看。板。な。ど。が。あ。り。メ。イ。ン。ホ。ール。と。な。っ。て。い。る。

そ。の。大。き。な。盆。裁。が。シ。ン。ボ。ル。的。に。置。か。れ。て。い。る。

楓。は。胸。に『平。星』と。書。か。れ。た。赤。い。胸。章。リ。ボン。を。つ。け、「主。催。者」の。紙。が。貼。ら。れ。た。席。に。座。っ。て。い。る。と。な。り。は。和。泉。も。

ほ。か。に。麻。友。と。ハ。ッ。ピ。姿。の。梨。花、盆。裁。の。先。生。二。人。と。ハ。ッ。ピ。姿。の。井。上。客。は。だ。れ。も。少。し。離。れ。て。博。と。優。子、井。上。客。は。だ。れ。も。い。な。い。

楓。が。ス。マ。ホ。を。み。る。と。十。時。の。表。示。

和。泉。を。見。て、「うん」と。う。な。ず。く。と、ス。テ。ー。ジ。に。の。ぼ。り、左。の。腕。を。し。き。り。に。か。き。な。

楓。が。マ。イ。ク。を。持。つ。と、キ。ー。ン。と。音。が。鳴。る。

誘。導。灯。を。も。つ。た。車。両。係。の。井。上。が。ス。ピー。カ。ー。を。調。整。す。る。

楓、ふ。た。た。び。マ。イ。ク。を。持。つ。

楓、（か。細。い。声。で）今。日。は、お。忙。しい。中。を。お。越。し。い。た。だ。き。あ。り。が。と。う。ご。ざ。い。ま。す。

だ。い。ま。よ。り『盆。裁。フ。エ。ス。テ。ィ。バ。ル』を。始。め。ま。す。

空。か。ら。ぼ。つ。ぼ。つ。と。雨。が。降。っ。て、楓。の。顔。を。ぬ。ら。す。楓、空。を。見。上。げ、そ。れ。を。ぬ。ぐ。う。

優。子。と。博。が。心。配。そ。う。に。楓。を。見。つ。め。て。い。る。

「た。く。さ。ん。の。イ。ベ。ン。ト。を。ご。用。意。し。て。い。る。お。す。か。ら。ま。し。ん。で。く。だ。さ。い。よ。ろ。し。く。お。願。い。し。ま。す。」

と。い。し。ま。す。左。の。腕。を。か。き。つ。つ。ス。テ。ー。ジ。を。降。り。下。げ、

雨。つ。ぶ。が。だ。ん。だ。ん。と。多。く。な。り、進。行。表。の。看。板。を。い。く。ら。ク。タ。ー。の。看。板。が。濡。れ。て、

そ。ん。で。い。く。ら。ク。タ。ー。の。看。板。が。濡。れ。て、進。行。表。の。看。

楓

楓

井上

入る。寒そのうに震える梨花。空を見上げる先生
たち。おしぶ顔。つむく楓。濡れた楓の
顔。泣いているのか、雨のせいなのかわ
からない。かけようとするが、博が引き止
める。大粒になっていくようだ。
雨はとき「キーン」とまたマイクの音が
する。楓、ステージの上を見る。
と、そこには誘導灯を持った井上の姿。
「騒がせします。今日は、『盆栽フェステ
イバル』を楽しんでは、盆栽ブースをお
まじりください。フリースタイルアップをお
聞きください。」「
（以下ラッポのリズムののって）
ここは鬼無盆栽の産地
となりは鬼無盆栽の産地
みどりがせば盆栽畑、オリーブ畑
みどりがいっぱいといかないよ
まじりでこないといかないよ

オレは凡才。天才じゃない
だから盆栽。修行するしかない
今日は即売会。オークション
企画がいろいろの人も来ないとソン
通りがかりの人も来ないとソン

高松、イエー、うどんがうまい
高松、イエー、栗林公園りっぱな公園

（BONSAIと書かれた看板を見ながら）

ビーオーエヌエーアイ

BONSAI

BONSAI

BONSAI

「ボンスアイ」で誘導灯を上げ、観客のレ

スポンスを求め。

井上 楓、「それに気づき、「ボンサイ」と叫ぶ。

井上 楓、「ボンサイ」

井上 楓、「ボンサイ」

井上 楓、「ボンサイ」

井上 楓、「ボンサイ」

楓、「ボンサイ」

楓、「ボンサイ」

楓、「ボンサイ」

楓、「ボンサイ」

井上 楓、「ボンサイ」

井上 楓、「ボンサイ」

井上 楓、「ボンサイ」

夫 1 「近頃のものは、四十年の夫婦づれが会

夫 1 「近頃のものは、四十年の夫婦づれが会

和泉 1 「一度入ったね、

和泉 1 「一度入ったね、

和泉 1 「一度入ったね、

和泉 1 「一度入ったね、

空の色が明るくなっている。

空の色が明るくなっている。

空の色が明るくなっている。

空の色が明るくなっている。

48 同・盆栽展示場

盆栽を見る夫 1 と妻 1。案内する和泉。

盆栽を見る夫 1 と妻 1。案内する和泉。

盆栽を見る夫 1 と妻 1。案内する和泉。

盆栽を見る夫 1 と妻 1。案内する和泉。

盆栽を見る夫 1 と妻 1。案内する和泉。

「盆栽診断コーナー」で、自分の盆栽を
盆栽の先生に診てもらい、眉をかめる
高年齢者の男性。

楓は「主催者席」で、関係者1に盆栽作
家を紹介される。深々とお辞儀をして、挨拶
をしていている。

コスプレした梨花は男性に一眼レフで写
真を撮られたり、麻友が梨花と男性を一
緒に撮ったりと人気を集める。

幸代が耕吉の写真の胸の前に持って立ち、
盛況となった会場の様子を見せ、来てくれま

しあなた、みなさんこんにちは。来てください
と、お母さん、それは……

49 同・駐車場

井上はキビキビと車両を誘導している。
天気も晴れ晴れしている。

50 同・ステージ

シンボルの盆栽の陰が少し長くなった。
ステージでは盆栽のオークションがは
じまり、「一万二千元！」などと、大きな

声が飛び交う。
『平星耕吉』の名前のついた黒松の盆栽
が出される。「十二万！」の声で落札され
る。

「えーっ」と、驚き喜ぶ博と優子。
盆栽作家の人の植え替えのパフォーマンス
スが行われていて、関係者席で、神妙に
見ている。楓と関係者。感心して見入る客

盆栽の陰が長くなった。

「主催者席」に楓。ステージ近くには和泉、梨花、麻友、関係者たち。十人あまりのお客さんたち。優子と博、井上。少し、遠くに優子と博、井上。楓が和泉にうながされステージに上がり、マイクを持つ。て今日は忙しい中、たくさんの方に来て、ご協力いただきありがとうございます。本当にありがとうございます。がとうございまして。これから盛んに町鬼無町を中心にますます盆栽が盛んになるように願っています。ステージを降りよう。楓はお辞儀をして、ステージを降りようとする。まばらな拍手が起きる。そのとき大きな声で

楓

井上 「ビーオーエヌエスエイ B O N S A I ボンサイ」

楓

と、腕を上げ、かけ声をかける。楓は井上を見てうなずき、もう一度、マイクに向かう。イ！「（腹からの声で） B O N S A I ボンサイ！」と、左の手のこぶしを上げる。大きな拍手が起きる。楓、笑顔でステージを降りる。麻友と梨花が笑顔で駆け寄り、梨花「すごい、楓はヘタレじゃないよ」優子「少しく離れたところ、」博「たくなし、なつて、」和泉の笑顔、関係者たちの笑顔、そして井上の笑顔。

優子

梨花

51 県立中央病院・外観

52 同・病室・内

楓

耕吉がベッドを起こし雑誌を見ている。楓が入って来る。「おじいちゃん、元気になった？」

耕吉「わしは元気だ。(首元を指差し)ここにヘルスメーターが入ってるんだ、見る

か？」

楓「いいよ」

耕吉「これであと十年はいけるらしい」

楓「大丈夫、おじいちゃんは百まで生きるから」

耕吉「百かー、ははは。ところで楓、この間はありがとう」

楓「いろいろあったけど、なんとか終わった」

耕吉「お前は責任感が強い。やるときはやる、わしの孫だ」

楓「ふふ、それは間違いない」

耕吉「正直、わしも一瞬、もうだめかと思っ

た。楓、好きなように生きる。やりたいたいことがあったら存分にやれ、命を燃やして

生きるとだ」

楓「うん。わかった」

耕吉「楓はなんでもできる。わしはもう燃え

尽きるだけや」

楓「とかいって、また、イベントしたいとか

言い出すんですよ」

耕吉「ははは」

ふたりで笑い合う。

53 同・同・外の廊下

スマホを耳にあてながら楓が病室から出てくる。

楓「はい」

54 如意輪寺公園・前の坂く見晴らし台(夕)

ひぐらしの鳴き声。

楓が坂を小走りに、それからだんだん早く息を切らせて駆け上がる。

のぼり切った「！」という楓の顔。そこにはいたのは植えてある松の姿を自分の体で真似している井上の姿。

55 同・見晴らし台(夕)

た夏空が広がっている。

(ペラで換算すると100枚終わりです)